

平成30年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同研究班」 研究報告書

平成31年4月15日現在

| | | | |
|-----------------------------|-------------------------------|------|------------------------|
| 研究課題名 | スラブ・ユーラシアにおける言語接触・言語圏に関する共同研究 | | |
| 担当者 | 氏名 | | 所属機関・職 |
| | 1 | 野町素己 | 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授 |
| 班員 | 2 | | |
| | 氏名 | | 所属機関・職 |
| | 岡野要 | | 神戸市外国語大学・非常勤講師 |
| | 専門とする研究分野 | | |
| | | | スラヴ言語学 |
| 研究テーマ | | | |
| ヴォイヴォディナ・ルシン語の語彙の共時的・通時的的研究 | | | |

研究成果の概要

今年度は、以前より継続して行っているヴォイヴォディナ・ルシン語の語彙の共時的・通時的研究を、共同研究班の研究課題である言語接触・言語圏のコンテキストから行った。マイクロ文章語であり、危機言語であるヴォイヴォディナ・ルシン語は、ルシン人の居住地で話される国家公用語（セルビア語・クロアチア語）およびその他の接触言語（ハンガリー語など）からの影響を受けやすく、言語構造の様々なレベルで言語接触に起因する影響や変化が観察される。数ある現象のうち、今年度はルシン語の「運動の動詞」に見られる変化の分析に取り組んだ。

ロシア語をはじめとするスラブ諸語の多くには、一部の移動動詞が定動詞と不定動詞の相関するペアを成し、語彙的・文法的カテゴリーを形成する。ヴォイヴォディナ・ルシン語にもこのような定動詞と不定動詞の使い分けが観察されるが、移動動詞の語彙的・文法的カテゴリーは西スラブ語と同じく〈二方向への移動〉の意味を表さないことが明らかになった。また不定動詞を用いると予想される個所に定動詞を用いる「非規範的な」用法が見られるが、これは規範が記述されていないことおよび接触言語（主にセルビア語）からの干渉という2つの要因が関連すると考えられることを併せて指摘した。

その他、南スラブ語学の世界の権威であるマーク・グリーンバーグ教授（カンザス大学、米国）を招へいし、東京と札幌で2回の講演会を組織した。スロベニア語を題材に、いかに言語変化が起こるか、言語の中心と辺境でいかなる変化が起こりうるかなどが広い文脈から論じられ、スラブ語学者のみならず、一般言語学者や言語接触論にかかわる多くの研究者が参集し、充実した意見交換が行われた。なお、グリーンバーグ氏の講演会の原稿に基づく論考は、2019年度の日本スラヴ学研究会会誌に掲載される予定である。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

雑誌論文

1. Okano, Kanamé. 2018. Способы выражения футуральности в русинском языке Воеводины (в сопоставлении с другими славянскими языками). Milliaressi, T. (éd.) *La Relation Temps/Aspect: Approches Typologique et Contrastive*, pp. 139–143. Lille: Université de Lille Sciences Humaines et Sociales. ISBN 978-2-84467-145-5 [謝辞なし]
2. Okano, Kanamé. 2018. Генитив отрицания в русинском языке Воеводины. Gutiérrez Rubio, E., Grischenko, A., Kislova, E., Kruk, D, Týrová, Z, Speed, T. (Eds.) *Contributions to the 21st Annual Scientific Conference of the Association of Slavists (Polyslav)*, pp. 170–179. Wiesbaden: Harrassowitz Verlag. ISBN 978-3-447-11070-9 [謝辞なし]
3. Okano, Kanamé. 2018. Verba и nomina dicendi у војвођанском русинском језику. *Deveti međunarodni interdisciplinarni simpozijum „Susret kultura“*, pp. 207–218. Novi Sad: Filozofski fakultet. ISBN 978-86-6065-465-8 [謝辞なし]
4. Okano, Kanamé. 2018. Синтакса безособного егзистенцијалног виреченя зоз одрекаючим предикативом *нет*. *Studia Ruthenica* 23, pp. 56–62. ISSN 0354-8058 [謝辞なし]
5. Okano, Kanamé. 2018. Лексична и деривацијна система руских дієсловох рушаня у води / на води. *Русинистични студии* 2, pp. 63–87. ISSN 2560-3612 [謝辞あり]
6. Okano, Kanamé. 2018. Славянские глаголы подводного перемещения: параллели и расхождения. *Limes Slavicus* 3, pp. 47–61. ISSN 2603-3127 [謝辞あり]

学会発表

1. 「スロヴァキア語における水中・水上の移動を表す動詞の意味と分布—ロシア語およびほかのスラヴ諸語と比較して—」（口頭）、日本ロシア文学会関西支部 2018 年度春季総会・研究発表会、2018 年 6 月 9 日、神戸市看護大学（国内）[謝辞なし]
2. К вопросу парности глаголов движения в русинском языке Воеводины. （口頭、ロシア語）Polyslav XXII, Faculty of Philology, University of Łódź, POLAND. 10–12. 9. 2018. (国際) [謝辞あり]
3. Глаголы затрудненного перемещения в русинском языке Воеводины. （口頭、ロシア語）日本ロシア文学会第 68 回全国大会、2018 年 10 月 27–28 日、名古屋外国語大学（国内）[謝辞あり]
4. 「言語の内的変化と言語接触のはざま—ヴォイヴォディナ・ルシン語の運動の動詞に見られる変化について—」（口頭）、日本スラヴ学研究会 2018 年度研究発表会、2019 年 3 月 20 日、東京大学（国内）[謝辞あり]

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。